

■第4回国立駅周辺まちづくり会議 記録(要旨)

日 時：平成24年2月18日(土)午後14時00分～午後16時00分

場 所：国立市役所 3階 第1・2会議室

出席者(敬称略)：

会長	篠原 修	東京大学名誉教授/GS デザイン会議代表
委員	中井 祐	東京大学大学院工学系研究科教授
	鈴木直文	一橋大学大学院社会学研究科専任講師
	新井和雄	公募市民
	笠井 恵	公募市民
	関 堅	公募市民
	藤本 剛	公募市民
	内山健治	国立市商工会会長
	甲斐恒人	立川バス株式会社運輸部次長兼計画課長
	窪田 洋	京王電鉄バス株式会社営業部営業第一担当課長
	原田弘司	社団法人東京乗用旅客自動車協会広報委員会副委員長 銀星交通有限会社専務取締役

国立市長 佐藤一夫

オブザーバー： 保科隆治 国立市商業協同組合理事長

欠席者(敬称略)： 羽藤英二 東京大学大学院工学系研究科准教授
(オブザーバー) 青木 正 東京都北多摩北部建設事務所管理課長

事務局：国立市 国立駅周辺まちづくり推進室 室長 門倉俊明
同 係長 中島広幸
同 主任 松平忠彦
同 主事 和田 賢

傍聴者 40名

【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 資料1：交通検討部会報告
- ・ 資料2：まち育て検討部会・景観検討部会報告

【開催内容】

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 資料説明
 - 1) 交通検討部会
 - 2) まち育て検討部会・景観検討部会
4. その他
5. 閉会

【議事要旨】

委員：駅周辺は商業地域として集客する場であり、いい街、多くの人が集まる場所である。桜の時期は外からも多くの人が集まるが、街の活性化の観点からは、平常時に人をどう集めるかが大事だ。プレツアーで初めて円形公園の中に入ったが、その広さを体感した。また、あの地点から放射状の3本の道路がきちんと見えたが、これが街の特徴を出していく上で大事なことだ。

富士見通りは富士山に向けて真っ直ぐ見える道だが、今は円形公園に入れず、もったいない。大学通りのイルミネーションのような取り組みが、3つの道にそれぞれの展開するなど、商店街の個性的なまちづくりができれば、回遊性を誘発できるのではないかと。円形公園から始まる街歩きなどもあるのではないかと。

委員：質問だが、高架下でトイレの問題に触れているが、北口、南口に誰もが使えるトイレは考えているのか。

委員：まち育て部会では、初年度にトイレマップを作成するという話が出ていたが、具体的な施設に関しては南口、北口に配置するという検討には至っていない。

委員：乗務員も使え、誰もが使えるトイレを是非ともお願いしたい。

委員：プレツアーを行ったことにより、駅周辺、高架下に関する議論の活発化に繋がった。それまではこうしてほしいという視点が中心だったが、ここ1、2ヶ月は何をしたいという視点から議論できた。その中で最後までやり遂げるべきことがイメージできてきた。本日の資料では抽象化されているが、高架下の小さな広場や隙間の空間を繋げ、南北・東西の繋がるポイントにし、市民が何かをする場所にしたい、またどういう活動をするかということも議論できた。これらをより具体的にイメージし、高架下から駅周辺全体にどう繋げていくか、そのために高架下をどうすればいいかということに繋がる。

また、各検討部会での検討を合わせていくことにより、議論が広く発展していくのではないかと。

会長：具体的に言うと、高架下と北口商店街、南口との繋ぎのことか。

委員：北口商店街は高架下に対して裏になってしまいそうだが、そこを含めて、一体的にどうすべきかが大事だ。

また、高架下施設の300㎡という面積条件は示されたが、そこに拘らずに検討したことが資料中の模式図になっている。

委員：ロータリー（円形公園）に関しては前出の意見に同感だ。最近、陽気が良い時には南口改札口の前のベンチ付近に人が多くいる。待合せだけでなく、コミュニティになっているようにも見える。ロータリーに渡れば国立らしいコミュニティの空間が作れるのではないかと。まち育て検討部会で検討されているベンチプロジェクトとの組み合わせも考えられる。

説明で3案示され、駅前広場の交通を制限するという意見が多かったということだった。だが、制限することにより、大学通り、富士見通り、旭通りの交差点が三差路になるが、制限されていても駅前広場からの交通もあるので、その捌きも必要となる。一度シミュレーションを行ってみないと、善し悪しを判断できないのではないかと。私の見込みとしては大変難しいのではないかと。思う。

プレツアーに参加して感じたが、旧駅舎を復原することにより駅周辺と南が繋がるという発信地としての性格を持たせるのではないかと。

会長：ロータリーに入れることには賛成だが、交通処理が難しいという問題提起だったが、駅舎の復原が南と繋がるというのはどういうことか。

委員：北部は文教の地として公民館等も勉強の場として活発に使われているが、南部で

はその辺が疎の状態にある。それをもっと充実させることができるのではないかと
思う。また、繋ぐためには交通インフラを整備することも必要だが、そのための
精神的な発信地として駅舎復原に魂を込めることが大事だと考える。

委員：交通検討部会でも指摘したが、北口の側道が整備されると通過交通の流入が多
くなることを懸念している。本来であれば北大通りと、国分寺市の 3・4・7 号線が、
通過交通が通る道となるのだろうが、整備が進まないために高架北側の側道への
流入が懸念される。北口のマンションの北側は国分寺市なので、交通規制も含め
て国分寺市と一緒に検討してほしい。

南口駅前広場について、交通検討部会ではタイプ①-2は交通が回れないとい
う指摘があったが、先ほど、その点は検証しているという説明もあったので、こ
のタイプの可能性もあると思う。信号無しで円形公園に近づけるところは良いが、
東西非対称になるところは難点だと思う。タイプ②をベースに、交通面での対応
も含めて検討してほしい。

西 1 条線や 3・4・10 号線を活用した自動車交通の処理も含めて検討して欲しい。
西 1 条線、3・4・10 号線を整備することにより、通過交通を排除するというのが駅
周辺の交通の考え方だと思うので、それに則って検討してほしい。

委員：商工会では、商店街の委員を集めて基本計画の勉強会をやっている。まち育て検
討部会の報告は、基本計画を策定するときの協議会でもやってきた。もっと具
体的な議論をしてほしい。

交通については、駐輪場の問題やタクシープールなどの問題が欠落している。
基本計画ではタクシープールを 5、6 台確保しているが、これを前提の上で交通を
検討しているのか、それでいいのかと感じた。何十台というタクシーがいるが、
あれないという前提で検討しているのか。

高架下については東側について検討していたが、高架下全体で 3,000 台の駐輪
場が必要だ。今ある駐輪場が 1,500 台だが、駐輪場として活用するにはもった
いない資産となっている。東側から駐輪場を利用する人は西側にあっても利用し
ないので、東側にも必要だ。それがはっきりしないと自転車の動線が見えてこ
ない。

タクシープール、バスの乗降場、駐輪場について、しっかり合意をとっておか
ないといけない。

会長：事務局では自転車やタクシーの問題を検討していることは知っている。恐らく検
討部会でそこまで議論していないのは、その前の交通処理の話しを議論して、一
応の方向性を決めたいからだろうと考える。駐輪場、タクシーについてどの程度
説明できるか。

委員：関連する質問があるのでよろしいか。2年以上前に駅周辺の南北を集中的に街歩き
した。このときに感じたのは、西 1 条線や 3・4・10 号線周辺に住居が多い。だが、
地域住民のことが載っていない。交通を少なくすれば安全になるだろうが、それ
にプラスして精神的な部分が載っていない。2年以上前に言ったが、今日も一言も
触れられていない。この点は問題だ。

ガードの北側線路際に幅 1m 程の土地があるが、その部分の整備に対する予算が
3,000 万円で計画されている。また、北口駅前広場だけで 45 億円ほどの予算で計
画されているが、どう割り振られているのか。南口駅前広場は 51 億円ちょっと、
高架下施設は、2,500 m²か 300 m²か分からないが 8.5 億円程の予算となっている。
この割り振りがどうなっているのか。お金がないと何もできないので、その辺り
について、併せて回答してほしい。

会長：事業費に関する話だが、まず自転車やタクシーについてどう検討しているのか説
明できるか。

事務局：駐輪場は、基本計画資料編で高架下に 3,000 台としている。現在、西 1 号線沿いの駐輪場は 1,500 台前後、これを複合施設に入れることで 2,000 台程度と考えている。南第 2 駐輪場も 1,500 台程度ある。駅周辺全体では、国立市域で 6,000 台、国分寺市域で 4,000 台となっているのでだいたい収まる。ただし、高架下については、2,500 m² 全て使っても 2 層にしないと 3,000 台の確保が難しいことも考えられ、2 層化にも課題がある。そのため交通検討部会では南第 2 駐輪場を 1,500 台から拡充を図っていく必要があるのではないかと問題提起している。この点については議論がなかった。今後、大学通り東西の無料駐輪場 2,000 台程度を将来的にどうするかも含めて検討していきたい。

タクシープールについては、北口駅前広場については既存の台数を確保したいと考えているが、限られたスペースでもあるので、今後交通事業者と協議を行っていききたい。南口駅前広場については、複合施設の活用も含めてタクシープールの必要台数が何台かを詰めていききたい。

事業費については見直しも考えている。駅前広場の考え方、高架下の具体化等に応じて事業費を出していきたい。複合施設は、来年度民間資金の活用の可能性について検討する予定である。

委員：南第 2 駐輪場は基本計画ではできるだけなくす方向で再整備の検討という言葉を使った。拡充ということで残すことを断言するのか。

事務局：高架下で 3,000 台の確保が難しい場合には、拡充を検討しなければならないという意味である。

委員：東側高架下には作らないと言っているのか。

事務局：3,000 台が確定していないので、実際に確保できるということになれば基本計画どおりになる。

委員：基本計画には、東側地域には商業施設、駐輪場等の 4 つを検討するとしている。当然駐輪場を検討するということか。

会長：収納できない場合は考えないといけない。

委員：3・4・10 号線の完成後、3・4・7 号線の相互通行化ができないと難しいと説明があった。都道 4 号線に繋がっており、都道の考え方は相互通行が基本だと思うが、現在大学通りから紀ノ国屋の駐車場に入る車が駅前郵便局まで停まっている状態にある。相互通行にした場合、左折待ちの車両と右折待ちの車両で大学通りが渋滞すると見込まれる中で、実際に相互通行にできるのか。検討するに当たって現状を踏まえてからお願いしたい。

事務局：3・4・7 号線は東から西への一方通行になっているが、3・4・10 号線と西 1 条線が開通することによって、周辺に負荷を掛けない方法として大学通り東側の相互通行化を検討していこうということ。旭通りと大学通りの間を拡幅しないで相互通行化することを想定している。

会長：委員からの指摘は現状をちゃんと見るということだが、それはよろしいか。

事務局：はい。

委員：現状と 3・4・10 号線が完成した時の交通シミュレーションを見せていただいた。また、歩行者優先ゾーンや北口駅前広場についても説明があるが、ミクロの話とマクロの話のつながりがどうなっているのか。例えば、歩行者優先ゾーンを作ったときに、ピンクのゾーンをどのくらいの交通量にしたいときはどこをどう止めないといけない、全く入れないとするとどうしないといけないとか、そういう検討はシミュレーションを使ってできるのか。北口駅前広場についてはまち育て検討部会でも見たが、殆どの委員から駅を出た正面にタクシープールがあるのは良くないという意見があった。なくすことは難しいという説明はあったが、そこに

置かないとするとどこに無理があるのか、検討されているのであれば聞かせて欲しい。

事務局：本日は一案のみ示しているが、交通検討部会では別の案として、タクシープール等を西側に配置する案も提示した。この場合、路線バスの乗降場が駅側 3 バースから 2 バースに減少し、対面のマンション前に 3 バース配置する必要があり、歩行者の横断箇所が増える等の課題もあるが、歩行者空間を駅舎出入口正面に置きたいという検討部会での意見には応えられている。ただし、交差点とバス乗降場との関係等、解決すべき課題もある。交通検討部会では本日提示した案をベースにこの案の考え方も反映して検討するという点が部会長から言われている。タクシープールについては、検討部会でも高架下にタクシープールを置けないかという意見もあったが、現段階ではどこに置くとは言い切れないため、駅前広場内に置く前提としている。

事務局：交通シミュレーション上では、ある道路を一方通行にする、歩車共存にして車のスピードを落としたらどうなるか等は検討している。一般的に 1 時間当たり 200 台から 250 台の間であれば歩行者と車が共存できる目安であると言われている。平均すると 1 分間に 3 台くらいだが、それを目安に検討してみたい。

委員：まち育て検討部会で南北の交通広場や高架下の使い方を考えたときに、交通の面で影響があつてうまくいかないという点が分からないため、基本的に何でもできるという状態から議論をスタートしている。例えば、南口駅前広場を渡れるようにすると他にどういう影響があるかということの情報をもらえるといい。正解だけでなく、不正解な絵もあると助かる。

会長：駅前広場はタクシーやバスが沢山停まっておかしいのではないかと、通信手段が発達しているから他のところに置いて呼び出せばいいのではないかと、最低限何台かは置かないと運用できないということである。

委員：こういうテーマについては業界として話してこなかった。それは何でもできるという観点から出発しなければいけないということが大事だからである。2 年前のシンポジウムではパネラーとしてショットガン方式についても発表したけど、会長から指摘があつたように何台かは駅前広場に必要。現在国立のタクシーの乗降客は年間 180 万人、そのうち北側の駅で年間 25 万人位、南側の駅で年間 50 万人位となっている。ここから最低限何台必要かは分かっているが、交通検討部会でまた紹介したい。

会長：ありがとうございます。駅前広場が一番地価が高いところでもあるのでデッドスペースを作らないようにしてほしい。

内山：交通検討部会長が欠席なので、会長からお願いしておいてほしい。駅周辺は東から西は行きやすいが、西から東に行く通りの整備が必要という意見が協議会でもあつた。一橋大学の北側の通りを整備できれば、ロータリーまで行かないで通過できる。交通検討部会で検討してもらおうよ会長からお願いしてほしい。

会長：市長から一橋大学の学長にお願いするのだろうか。

委員：高架下の東側ゾーンに駐輪場を設けることは基本的な考え方にしてほしい。駅前広場に自転車が進入してしまえば今よりも交通が悪化してしまう。交通検討部会でも提案したが、歩行者優先ゾーンの周辺までを自転車の通行領域とし、機能をはっきり分けるべきだ。

会長：高架下の土地は元々 JR の所有地なのでその意向が強く働き、特に民営化以降、商売を強く意識する。高架下に駐輪場という話は分かるが、高架下については国立市の意向は簡単には通らないと思うが、その辺はどうか。

事務局：現在東側区間と言われている三鷹から国分寺の間の 3 駅で駐輪場がどこに整備

されているかということ、駅から 200m から 300m 離れている。同じような考え方を J R は国立駅に対しても持っていると思う。

駐輪場の定期利用については、西・北側が約 7,000 台、東側が 500 台となっている。大学通りに無料駐輪場が約 2,300 台、うち東側に約 1,000 台あるので、東からの利用者はここで吸収できればと考えている。西の立川方面から来る自転車が圧倒的に多くなっている。

会長：高架下で何台くらい収まるかということから段々計画を煮詰めていくという段階になってくる。いずれ交通検討部会でもそれを題材に議論してもらいたい。

委員：旧駅舎の C G に下屋が表現されていないが、やはりバランスが悪い。市の文化財に指定されていないが、一緒に復原することが本当は望ましい。C G を作る際にも入れて欲しい。下屋があるバージョンもほしい。

委員：最初は旧駅舎に下屋がなかった。立川観光の待機場所になっていた。

会長：後で増築された部分だろう。そこも入れた方がいいという要望だ。

委員：南口駅前広場について、交通処理を駅前広場内だけで考えるのではなく、例えば 3・4・10 号線が完成したら、北口駅前広場のように道路を迂回して駅前広場に戻るようにすれば動線が楽になるのではないか。駅前広場にゆとりを持たせるような方法を考えて欲しい。

委員：基本計画にある機能と部会で議論されている機能をつなぐ部分が不足しており、全体像に至らない。駐輪場の話があったとして、一方で高架下にこういうものを入れたいとなったときにどう関連づけるのか、シミュレーションをかけてみてどう流れができるかを検討しないと一つ一つの問題で終わってしまう。そういうところに踏み込む段階にあると思う。そうしないと具体的なものに繋がっていかない。例えば、東側の高架下で機能を考えた時に南口のロータリーとどう繋がるのか。

会長：それは私の役割ですね。時期を見て部会長と相談して一つの案としてもまとめることを考える。

委員：景観検討部会の役割を考えながら議論を聞いていた。タイプ①-2 について支持する意見があったが、私もそう思った。南北通路が東側にずれており、北口の別案を歩行者空間が東側にあったが、これらを組み合わせていったらこういう空間になると考えていくこともできる。個別に駐輪場やタクシープールについて議論するとどうしても現状を強化する方向になるので、全てを盛り込める訳がない。それぞれをどうやってバランスをとるかを、まず景観検討部会で整理し、その後この場で議論する段階に入っていくのではないかと考える。

会長：傍聴の方も多いのでお話ししたいが、宮崎県や旭川市等で鉄道側と折衝しながら駅前広場のデザインをやっている経験からすると、鉄道側がかなり強いので、市の側でいつまでも議論していると常に鉄道側の事業が先行してしまうという実情がある。そろそろ具体的な形の議論をしていかないといけないが、そういう状況で市事務局も結構苦労していることは知っておいていただきたい。

事務局：来年度は 5 月の連休明けに第 5 回まちづくり会議を開催したいと思う。ただ、結論に向けてはもう少し検討部会での議論の時間が必要だと考えている。J R の連続立体交差事業は平成 25 年度末には終わる予定で、その後高架下利用も始まるので、平成 26 年度には市の事業も行いたい。そのためには平成 25 年度中には補助金等の申請を行う必要があり、秋くらいには計画ができていないといけない。委員の任期も 8 月ということもあり、秋くらいには方向性を決めたい。

市長：これまで J R 東日本の現在の社長（当時副社長）、八王子支社長、ラインモールの社長、紀ノ国屋の社長とも話しをしているが、非常に難しさを感じている。事務

局から 5 月の連休明けと説明したが、前倒しして開催し、具体的な議論を進めたいと考えているのでよろしくお願ひしたい。

本日は貴重な意見をいただいた。南口駅前広場についてはタイプ①-2 について言及されていた意見もあったが、私も興味深く見ていた。もとより、国立市は立川市、国分寺市等々の駅前で再整備が行われる中で、特化した街を作らないといけないと考えている。そのためには、安らぎ、潤い、開放感といった部分で日常的には買物や食べ歩きが自由にでき、あるいは大学通りも含めたイベントを考える等、他の街と違った駅前広場ができるといいと感じた。

会長：他とは違った特色のあるものにしたいということだ。他になればあとは事務局に返したい。

以上